

---

# 初桜

azuki

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

初桜

### 【Nコード】

N7653R

### 【作者名】

azuki

### 【あらすじ】

中学生の不安定な心の動き。

恋愛・友情・進路。

いろいろな「ハジメテ」を小説にしました。

## 芽生え

・・・どうして・・・??

・・・

・・・

私は、自分だけで、道を切り開く。

誰の手も借りない。

・・・それで、十分だ。

「佐伯さんって、怖いよね〜」

「そうそう。暗すぎるって〜」

私は、友達のアッコとミツルと話していた。

「佐伯さん」っていうのは、うちのクラスの女の子。

顔は可愛いけど、雰囲気が悪すぎる。

ほとんど話さないし、前髪が、目を隠しているせいで、どこを見ているのかも分からない。

・・・彼女は、思いつきり、クラスから浮いていた。

「アッコ、今、同じ班でしょ??かわいそ〜っ」

ミツルが、同情して言う。

「そうだよねえ。あたし、クジ運悪いのかなあ」

アッコも、笑いながら、そう言った。

私も、笑った。

「何言ってるんだよ」

突然、「誰か」の声が、私達の後ろから聞こえた。

「何？」

ミツルが、思いつきり不機嫌そうに、その「誰か」を見た。

「何じゃねえ！！佐伯の悪口は言うなっ！」

「誰か」・・・大宮くんは、それだけ、私達に言っつて、自分の席に戻っつていった。

「何？あれ。感じ悪〜」

アッコが頬を膨らませてそう言う。

・・・私は、後ろめたさを感じていた。

大宮くんは、明るくて活発な、クラスのリーダー格の男子。

クラスの、学級委員を務めている。

そして、私の好きな人。

・・・そんな事、言えっこないけど。

「大宮つてさ〜、佐伯さんのこと、好きなんじゃない？」

ミツルがそうつぶやいた。

その一言で、私の心が固まる。

「だよねえ??佐伯さんのことになると、いつも、ああだもんね？」

・・・。

私は、何も言えなかった。

そして、ふと、佐伯さんの方を見る。

・・・彼女は、いつものように、一人で本を読んでいた。

あんなに、暗い子を？

大宮くんが??

私の足は、無意識のうちに、佐伯さんの方に向かっつていった。

「・・・何??？」

佐伯さんの冷たい声が、私の胸に重く響く。

『大宮くんのこと、どう思ってたんの?』  
そう聞きたいのに、言葉が口から出てこない。

そのときだった。

「何してんの?・・・三根まで、佐伯のこと、イジメんの??」  
大宮くんだった。

さっきまでの表情と違い、とても、寂しそうな顔をしている。  
・・・なんで、そんな顔するの??  
そんなに、佐伯さんのことが好きなの??

「イジメられて、ないよ、聡史。私のところに来てくれたの」  
佐伯さんが、そうつぶやいた。

・・・相変わらず、どこを見ているか分からない。でも、顔の向きは、しつかりと、大宮くんを捉えていた。

「そうか?・・・まあ、三根は、優しいやつだからな?」  
そう言つて、大宮くんは笑った。

いつもは、大好きなはずの大宮くんの笑顔も、今は、不快なだけだった。

「・・・大宮くん。佐伯さん、ごめん」

私は、そう言つと、アッコとミツルの元へ戻つて行つた。

「何?佐伯さんに、ケンカ売りにいったの??」

「やるじゃん、瞳っ!!!」

もう、言い返す元気もなかった。

・・・なんで、大宮くんは、あんなに悲しそうな顔をしたのだろうか?  
どうせなら、怒った顔をしてくれたほうが、良かったよ。

私の胸に、小さな小さな、黒い何かが芽生えた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7653r/>

---

初桜

2011年3月20日13時52分発行